

外来緩和ケアについて

2025.4.9

緩和ケアのイメージとして、がんの終末期の患者さんの看取りをイメージする方がいらっしゃると思います。しかし、近年では終末期のみではなく、がんに対する治療や病気そのものによって生じる苦痛を軽減することを目的として介入する治療となっています。

緩和ケアは医師だけでなく、多職種による医療チームを組んで行うものです。当院でも理学療法士、栄養士、看護師、薬剤師、医師で構成し疼痛管理、がんリハビリ、栄養療法などを提供しています。また、対象は患者さんだけではなく、ご家族も対象となります。近年、緩和ケアは治療の早期から提供することが有用であると認識されています。この考え方は既に日本の施策にも取り込まれています。

では、こういったところにメリットがあるのでしょうか。

早い時期から緩和ケアが介入することで、患者さんの生活の質『QOL』を改善させることが出来るとされています。従来のように終末期に入ってから緩和ケアチームが介入するとどうしてもタイミングが遅れてしまうことがありました。当院では緩和医療を目的とし紹介となった患者さまは外来に受診していただき、外来から緩和チームとの関わりをもっていただいております。

がん患者さまとご家族の生活の質の維持を目指して、より望ましい生活を担保できるよう考えていきたいと思っています。

小樽掖済会病院 緩和ケアチーム
外科担当医師 植木 知身